

# 外来リス生息数 AI分析

## NTT東 鳴き声検知 駆除効率化

県内で生息域を拡大している特定外来生物「タイワンリス」の生息実態を調べるため、NTT東日本神奈川事業部（横浜市中区）は県の委託を受け、鳴き声をAI（人工知能）で分析する調査を初めて実施した。目視に比べて調査範囲が広がり、生息数の把握も10倍超と大幅に増えることが確認された。今後の駆除の効率化にも期待が持てるという。（川崎大輝）

### 目視と比べ10倍超確認



AIを使って録音データを検証するNTT東日本神奈川事業部の職員（横浜市中区で）

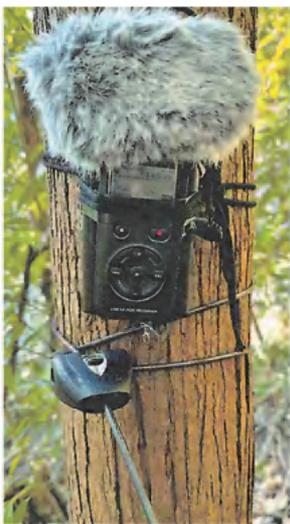
タイワンリスは、台湾や東南アジア原産の外来種。体長は尾を含めて40センチほどで、国内では動物園から逃げ出すなどし、公園などにすみ着いたとされる。洗濯物を汚したり、電話線をかじったりするほか、農作物などへの被害もあり、2005年に特定外来生物に指定された。

県内では鎌倉市や三浦半島を中心に生息域を拡大している。各自治体は箱わなによる捕獲で駆除を進めており、県によると、年間の捕獲数はここ数年5000匹程度で推移。8000匹を超える年もあるという。



特定外来生物のタイワンリス（県提供）

捕獲計画で重要になるのが、生息域と個体数の把握だ。NTT東日本神奈川事業部は今回、タイワンリスが目撃された周辺にレコーダーを設置し、録音データからリスの鳴き声をAIで識別する方法で調査を行



公園に設置し、リスの鳴き声を集めるレコーダー（NTT東日本神奈川事業部提供）

った。調査の対象となった横浜市旭区のことでも「自然公園」は広大な敷地を誇り、その大部分を占める森林エリアで、2月19日～3月29日に実施した。

AIが検知したリスの音声を担当者らで確認したところ、雨音や子供の声などを誤検知することもあったが、同じエリアに設置したセンサーカメラが5日間で260匹のタイワンリスを確認したのに対し、AIは2600匹超と、10倍以上の個体を「捕捉」した。

同社の担当者は「電話線への被害など、長年対応を余儀なくされている悩まし

い存在だけに、調査データを使い効率的な駆除につながれば」と話す。同社は今後、山林や河川など、他のエリアにも調査範囲を広げることとしている。

自治体によるこれまでの駆除は、目撃情報があった地点を職員らが目視で確認し、わなを設置。人手が必要なうえ、リスが姿を見せないことも多く、効率が悪かった。AIを活用することで、より効率的で、省人化につながる駆除も期待される。

県自然環境保全課の小川登史子グループリーダーは、「調査結果を検証し、実際の活用方法を検討したい」としている。